

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	国際会議参加とサンフランシスコ企業訪問
氏名 Name	篠田理沙
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	農学研究科地域科学専攻 博士後期課程 1年
渡航国 Country	アメリカ合衆国（ハワイ島）
渡航日程 Travel schedule	2022年1月3日 ～ 2022年1月8日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

IEEE/CVF Winter Conference on Applications of Computer Vision (WACV) に参加する。宿泊施設の高騰により、旅程の変更を余儀なくされたが、およそ1週間、応用系の画像認識のトップ国際会議に参加することで、新たな知見を得る。また世界中から集まる研究者と交流することで、自身の視野を広げる。帰国後も、知り合った研究者との交流を行う。

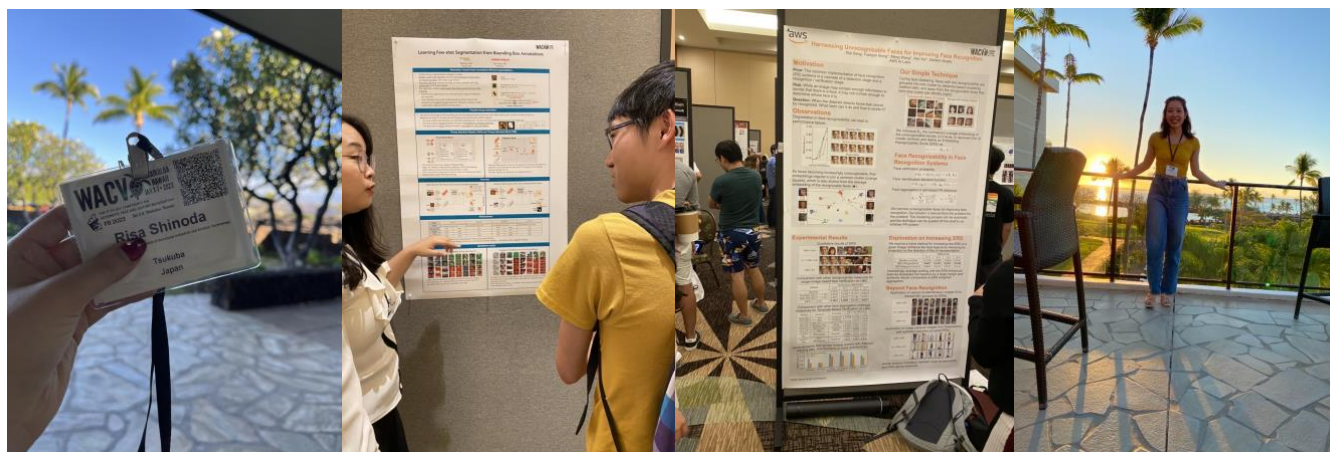
1/3 羽田空港発

1/3～1/7 WACV 参加

1/8 羽田空港着

成果 Outcome

1週間の国際会議参加により、最新の画像認識技術に触れた。ポスターセッションでは著者らと議論をし、濃密な時間を過ごした。農学系の分野も投稿される、珍しい画像認識に関する国際会議であり、数本あった農学系の論文の著者には、自ら話しかけにいき、農業系すべての論文の著者と会話をした。農業データセットを作る上でのアドバイスを多数いただく事ができた。ぜひ来年度の WACV に、私も分野に貢献できる農業画像データセットを投稿したいと考え、ディスカッションを始めている。日本からも著名な研究者が参加しており、今後の自身の研究にも活かせるコネクションが多数できた。



今後の展望 Prospects for the future

本渡航によって得られた一番の収穫は、研究に対するインスピレーションとモチベーションである。農業と画像認識の研究をしている研究者は国内では数多くなく、また国際会議に対する位置付けも、農学系と工学系で異なる。画像認識の研究は、最先端の技術は国際会議に集まってくるため、このような国際会議への参加は、画像認識本流の研究動向を得るためには欠かせない存在となっている。そのため、参加者や発表者との議論は、とても刺激的なものであった。ぜひ私も、来年度は農業データセット提案で WACV に採択され、ぜひ現地で発表者として参加したい。